以外に人由来菌や犬由来菌の研究も行い，無菌室施設の改善などのバイオハザード対策・研究を推進した。英国のブルセラ標準血清の力価を基準として，日本のブルセラ標準血清を多数作成した。

豚の流行性肺炎の原因菌のMycoplasma調査・研究を進め，その清浄化対策として39年同第一部長時代に豚集団変換計画の方法SPF（Specific pathogen free）豚の開発・研究を開始した。

46年家畜衛生試験場長として，将来の研究発展を見据えて家畜衛生試験場のつくば移転計画を作成し，農林試験場所と共同で建設計画を企画・推進した。

54年退官，同年麻布大学教授として環境保健学部に赴任し，新設学部の充実に努め，学部長として教員の研鑽と，人と自然環境の調和を図る環境科学，医臨床検査学の教育と研究の充実に尽した。

生物科学安全研究所では55年理事，58年には理事長，62年に退任するまで，人の安全性と農産物や畜産物の生産性向上のために現場の対応・調整に当たった。

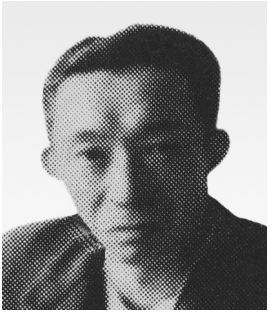
家畜衛生試験場退官後，笹原二郎先生と共に家畜衛生試験場退官者のために三多摩OB会を組織し，親睦の場を設けた。現在も国分寺駅ビル内の会場で毎年OB会の集いが続けられ，つくば市観音台の動物衛生研究所の動衛研同窓会と連携した会が保たれている。

各地の銘酒と各時代の歌を楽しまれ，ご家族を大事にし，石楠花を愛された。

【著書】 家畜微生物学 外5編。石南亭随記 77頁（平成24年5月17日）を残された。

原文：伊佐山康郎（ISAYAMA Yasuo）
補筆：佐藤 国雄（SATOU Kunio）

鳥潟　勲
TORIKATA Isao（1912～1972）



明治45年（1912）2月27日東京府荏原郡入新井町大字新井宿字源蔵原2801番地（現・東京都大田区山王町）にて父，正四位勲二等　工学博士　鳥潟右一，母，九梅の次男として生まれ，昭和47年（1972）9月26日脳溢血で死去。享年60歳。開業獣医師。

【学歴】 大正12年（1923）開成中学校入学，大正14年同中退。昭和5年東京獣医学校中等部（世田谷区下馬）入学，昭和8年3月同卒業，獣医師資格獲得。昭和8年4月東京高等獣医学校へ進学。昭和10年4月1年休学，静岡県森永乳業三島工場に就職。昭和11年4月東

京高等獣医学校へ復学，昭和12年3月同卒業。

【経歴】 昭和12年東京大学獣医学科内科研究室にて，板垣四郎先生の指導を受け，その後，細菌学研究室の中村哲哉先生に師事。昭和13年3月　渋谷区神泉町24に駒場家畜病院開業。

【業績】 昭和15年弘前北部第19部隊に教育召集。昭和16年北満地区山神府（現・中共東北地区）の秋田在満部隊第7217部隊付獣医部将校として入隊。昭和19年流行性出血熱の研究中に感染，病勢悪化，九死に一生を得る。昭和20年北満山神府より九州地区守備に移動，8月終戦，戦後処理にあたる。昭和21年九州で動員解除復員。山形の疎開先より家族を迎え渋谷区神泉町に東京家畜病院を開業。臨床再開。

昭和21年～24年東京都獣医師会結成，運営に尽力，副会長。昭和24年～26年理事。昭和25年島村虎緒先生，伊藤良作先生の指導のもと，木全春生先生とともに日本獣医師会設立に尽力，理事。東京都家畜防疫委員に就任。昭和27年東京都獣医師会狂犬病対策委員会委員長，官民一体の防疫態勢の基礎を確立，狂犬病の撲滅に尽力。昭和28年～38年東京都獣医師会理事および各種委員を歴任。昭和32年～34年日本獣医師会理事，昭和35年～昭和37年日本獣医師会監事。昭和37年慶応大学林髞先生とともに日本条件反射研究会会員となり尽力。東京都獣医師会会報編集委員，同定款諸規程改正委員に就任。昭和47年日本獣医史研究会（現・学会）設立発起人，世話人として尽力。

〈**参考文献**〉「人間 鳥潟勲」刊行会　昭和48年9月26日発行

倉林恵太郎（KURABAYASHI Keitaro）